

2011年4月25日 日本テレビ 定例記者会見

《 全文 》

< 発表 >

細川知正社長：本日は「氏家齊一郎 お別れの会」があり、多数の皆さまにご参会頂き、御礼申し上げます。この会を持ちまして一区切りがついたと感じております。

一方で、東日本大震災は区切りがついていない状況です。改めて被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。状況がわかればわかるほど、被害が深刻であるという事が明らかになっている事に加え、福島原発の状況もあり、報道機関として緊急事態にはいかなる形でも放送できるように対応を整えています。同時にいわゆる娯楽番組を含めた通常の放送を行い、また CM 広告放送を通して経済の活性化を図るという私どもの使命も粛々と果たしていきたいと考えています。

イベントについてお知らせ致します。「フレデリック・バック展」を東京都現代美術館にて7月2日から開催します。フレデリック・バックは2つの作品でアカデミー賞を受賞し、特に2度目の受賞作となった「木を植えた男」は日本でも DVD や絵本として発売され、大変親しまれている作品です。今回の展覧会では、「クラック!」と「木を植えた男」というアカデミー賞受賞2作品のアニメーション原画の中から、スタジオジブリのスタッフがプロの目で選んだ名シーンを揃え、世界初の規模で公開します。

記者：本日、氏家会長の「お別れの会」が執り行われましたが、改めて細川社長から氏家会長の思い出を含め、今のお気持ちを聞かせて下さい。

細川社長：故・氏家会長は記者の皆さまが好きで、取材も積極的に受けていましたので、皆さまもよくご存知かと思います。私どもの感覚としては氏家会長の存在は変わることなく、ずっといらっしゃるという気持ちを持ち続けていましたので、いつでもいらっしゃるはずの存在が今いらっしゃらない事を実感しています。ただそうした気持ちは気持ちとして、そればかり言っているわけにはいきません。特に今年は地上デジタル放送を完成させる年です。これは氏家会長も当時の日本民間放送連盟会長としてそのスタートに大きく関わった国家

的な事業です。また、テレビ放送業界はようやくリーマンショック後の不況状態、特に CM 広告の減少から回復してきて、今年度は勝負に出る、前向きに攻めなければいけない年なのです。それだけに、いつまでも嘆き悲しんでいるわけにはいきません。知恵と汗を傾注し東日本大震災の影響を一刻も早く克服して、今年を前向きな 1 年としてスタートさせなければいけない、そう考えています。

1. 視聴率の動向と編成戦略

記者：4 月期も本格的にスタートしました。最近の視聴率動向と編成戦略を聞かせて下さい。

細川社長：順調に滑り出している番組もあれば、この大震災による番組編成や製作への影響もあります。

大久保好男取締役：3 月中旬から 4 月中旬にかけての 4 週間、いわゆる 4 月期首期末の特番時期は、大震災のため番組編成が予定とは異なった形になりましたが、日本テレビは視聴率三冠王を獲得する事ができました。また、いわゆる 1 月クール、1 月から 3 月までの 3 ヶ月も視聴率でフジテレビを上回って四冠王を獲得し、その勢いは今も続いていると考えています。さらに年間で見ますと、1 月から 4 月 24 日までの 16 週の平均視聴率でも全日、プライムタイム、ゴールデンタイム、ノンプライムタイムと 4 部門でわずかですがフジテレビを上回っています。ここまでは日本テレビの視聴率はかなり改善され、好調だと捉えています。

4 月の番組改編は大幅な思い切った改編を致しました。その結果、好調な番組もありますが、想定より視聴率を獲得できていない番組もあります。帯番組では、朝の「ズームイン!!SUPER」を「ZIP!」に改編し、昼の帯番組も「DON!」から「ヒルナンデス!」に替えました。これまでのところ、それぞれ改編前の視聴率には達していませんが、新しい試みも順次行っていますし、若い年代層向けのコーナーも作り着実に視聴率を獲得しつつある状態です。しかしこのままで良いとは考えていませんので、連休明けからさらにこ入れをして、よりレベルの高い番組にしていきます。いずれにしてもこうした帯番組はこれから 5 年 10 年と時間をかけて日本テレビの看板番組に育てていきたいと考えていますので、この段階でまだ総括はできません。

また、ゴールデンタイム、プライムタイムでは「スター☆ドラフト会議」「なるほど!ハイスクール」等、新番組も始まりました。「スター☆ドラフト会議」は初回の放送後に約 1,000 件の出演希望が押し寄せ、大きな手応えを感じてい

ます。この番組から新しいスターが誕生する事で番組自体も大きく育つと見ていますので、その意味では成長性を感じさせるスタートと総括しています。引き続き質の高い番組、視聴者の皆さまに安心してご覧頂ける、支持して頂ける番組を送り出したいと考えています。

細川社長：「ズームイン!!朝」は看板番組でしたが、視聴率が順調に獲得できるまでに3年かかりました。帯番組、特に生活のリズムに合わせた時間帯は視聴率獲得まで少し時間がかかります。様々な修正をしながら、できるだけ早く看板番組に育てたいと考えています。

記者：プロ野球が開幕して巨人戦中継が地上波で2試合ありました。その手応えをお願いします。

大久保取締役：大震災の影響で開幕が大幅に遅れましたが、視聴率は2桁を獲得できました。昨年の開幕戦よりはわずかに下回っていますが、10代男女の視聴が昨年に比べて著しく伸びている事もあり、スポーツコンテンツとして悪い数値ではないと分析しています。また、開幕後の他局のプロ野球中継、阪神・巨人戦では視聴率が12%を越えていました。このように地上波コンテンツとしてプロ野球は工夫すれば視聴率をさらに獲得できると考えていますので、引き続き巨人戦を中心に野球中継にも力を入れていきます。

記者：大震災に関連して「エールキャンペーン」はいつまで続ける予定なのか、また視聴者からの反響について教えてください。

石澤顕編成局長：「がんばろうニッポン」エールキャンペーンでは番組に出演するタレントやアナウンサーから、皆さまへの「エール」を3秒スポットCMの形で放送しています。基本的には4月一杯を目処として展開しますが、被災者の皆さまや復興の状況等に鑑みて、継続するかを決める方針です。

記者：大震災の影響について、いつまで続く見通しなのか、また夏に向けて節電対策が必要になってくると思いますが、その準備についてお聞かせください。

大久保取締役：大震災が発生してから1月半が経過し、当初はドラマのロケ地変更や美術セット制作が間に合わない等の問題がありましたが、そうした問題はすでに解決しています。番組の内容については、東北地方を中心に被災者の皆さまが極めて深刻な状況、厳しい生活を強いられていらっしゃいますので、

番組製作者として被災者の皆さまのお気持ち、心情等に十分に配慮しながら、日本全体で元気を出して頂ける番組を製作して参ります。

また節電については、国としての節電計画が決定された段階で対応できるように、すでに検討をしています。

記者：節電のために、深夜帯や夕刻の放送休止等の意見もあるようですが、どのようにお考えですか。

細川社長：節電のために放送を休止する事は現在考えていません。余震等、緊急で情報伝達する、報道する使命が私たちにはあります。従って放送を送り出す以外の部分で、節電に努める方針です。現在も社内各所の照明・空調を使用しない、あるいは控えていますし、エレベーターも一部を運転休止し、エスカレーターも停止しています。社屋にいらっしゃるお客様にはご不便をおかけしますが、様々な形で節電に努めています。また本社には独自の発電機能もありますので、状況に応じて機能強化も想定しています。放送を送り出す部分を制限する事なく、十分対応できると考えています。

2. 営業状況と放送外収入の動向

記者：営業状況と放送外収入について聞かせて下さい。

細川社長：年度決算について詳細は発表まで控えさせていただきます。日本テレビ単体では増収になるとの期待もあったのですが、そのためには放送収入が前年度を大きく上回る必要があります。しかし大震災報道のため3日間CMなしで放送したため、大規模な減収がありました。こうしたことから単体増収は難しいと見ています。ただし、それ以前の収益がありますので放送収入は前年度をわずかに上回る見通しです。

今期については、不調であったタイムセールスのうち、4月期はネットタイムセールスが2月末段階で完売しました。こうしたことからタイムセールスは前年度を上回る、またスポットセールスも多少上回るとの見通しでした。しかし、大震災以降はタイムセールスの4月5月の単発番組が苦戦しています。またスポットセールスは、4月が前年同期比で90%をわずかに上回る事ができるかどうか、そして5月は前年同期比90%に達する事がかなり難しいと分析しています。6月以降の回復を期待していますが、4月5月のマイナスの影響が相当出ると見ています。また原発の問題がどこで収まるか、節電による産業界全体への影響も想定され、極めて不透明な状態です。まだ先の状況は見通せないのが実情です。

放送外収入では、映画事業が回復基調です。東北地方を中心とした地域は引き続き厳しい状況にあります。他の地域では映画館入場者数が激減した一時期を脱した状態です。先週末に公開された「GANTZ PERFECT ANSWER」もほぼ前作と同規模の興行収入でスタートを切っていますし、先々週から公開されている「名探偵コナン 沈黙の 15 分」も好調ですので、映画事業に関しては大震災前の状況にほぼ回復しています。

イベント事業については、震災の影響が多少残っています。「レンブラント光の探求／闇の誘惑 一版画と絵画 天才が極めた明暗表現」は大震災の影響で開会式後に 2 週間休館となりました。またネットワーク局のミヤギテレビ等が主催して仙台で開催されていた「ポンペイ展 世界遺産 古代ローマ文明の奇跡 Vivere a Pompei」も会場の仙台市博物館が休止の状況です。今後、6 月 8 日から国立新美術館で開催される大型展覧会「ワシントン・ナショナル・ギャラリー展 印象派・ポスト印象派 奇跡のコレクション」は、震災の影響を脱して集客が期待できると見えています。

3. 地デジの進捗状況

記者：地上デジタル放送の今後の見通し、課題等をお願いします。

細川社長：デジタル受像機の普及は順調に進んでいます。3 月末の NHK 発表の速報値で 1 億 820 万 7,000 台と 1 億台を超えています。

一方、大震災で被災されました皆さまには改めて心からお見舞いを申し上げます。被災されました 3 県に関してアナログ停波の延期発表が 20 日に行われました。地元のテレビ各局が予定通りの停波を希望していただけに残念です。しかし、被災 3 県の自治体の状況を考えれば、今回の延期表明は受け入れざるを得ないとも考えています。ただし地元のテレビ各局にとっては被災と延期によるコスト増があり、法的措置を取られるのと同時に公的支援策をご配慮頂きたいと考えています。

また大震災に伴い、地上デジタルへの完全移行 PR を中断していましたが、残り 3 ヶ月となる 4 月 24 日以降、地域状況等を勘案して再開しました。地デジ普及へ引き続き努力していきます。

4. その他

記者：昨日「24 時間テレビ」のチャリティーマラソンランナーが発表され、70 歳の徳光和夫さんで非常に驚きました。エールや期待される事をお願いします。

細川社長：大いに期待しています。徳光さんは私の日本テレビでの同期生ですし、本人にたまたま会いまして「本当に大丈夫か」と聞きましたところ、「絶対大丈夫だから心配するな」と話していました。問題ないと思っています。

（了）